



編集・発行
日蓮宗 能勢妙見山
広報部
〒563-0132
大阪府豊能郡能勢町野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

秋季彼岸会法要

9月22日（月） 午後1時 於北辰閣（寺務所）2階ご宝前

秋季彼岸にあたり、ご先祖並びに有縁の霊位に塔婆供養します

ご希望の方は寺務所までお申し込み下さい（御志納料五千元より）

【9月の主な行事】

☆八朔祭祈禱

開運殿にて 随時ご祈禱

7日（日） 9時～16時

御祈禱お申込の方には「開運八朔田之実守」授与

11時30分 餅撒き 浄水堂前にて（雨天中止）

12時 特別法楽加持 北辰閣2階にて

引続き落語（喜怒哀楽さん）

★清掃の日

15日（月）11時

★月例祈願法要

15日（月）13時

☆秋季彼岸会法要

22日（月）13時 北辰閣2階

★鷗様月例祭

22日（月）15時

火伏せ守りの黒札を授与します

●9月の写経会は休止します

【10月の行事予定】

★写経会

12日（日）11時

★清掃の日

15日（水）11時

★月例祈願法要

15日（水）13時

★鷗様月例祭

22日（水）15時

◎ご祈禱・ご回向等のお申込はFAX・メールでも受け付けています

◎送迎バス 奉賛会会員並びに、ご祈禱ご回向のために

ご参拝のご信者様の便宜を図り、能勢電鉄妙見口駅

から山上までの送迎車を用意しています

利用ご希望の方は、必ず2日前までに電話で連絡を

願います 但しご希望に添えないこともあります

ぬかづ 糠漬けの妙味

服部 憲厚

糠漬けを始めて三年になる。きっかけは、昔食べた祖母の味。また食べたいと思いついた三年前の春、糠床作りからはじめてみた。

以来、マイ糠床のかき混ぜは私の日課である。

日本ではごくあたり前の風景だったが、今やそんな姿が日本の台所から消えつつあるのは寂しい。

確かに面倒だ。でも、そんな手間を差引いても余りある糠漬けの妙味について改めて紹介したい。

まずは体調の変化。

元来お腹の弱い私は、糠漬けを食べるようになってすこぶる胃腸の調子がよくなり、おまけにお肌までツルツルになった気がする。

次に野菜嫌いの娘も「このキュウリはおいしい！」と好んで食べてくれ、苦慮していた妻をも喜ばせた。

秘密は糠床の中にある。

糠床には、乳酸菌をはじめ多種多様な菌類が助け合い共存している。絶妙なコロニーを形成して発酵するので、漬けた野菜の栄養価はぐんと高まり、さらに芳醇な香りと、独特のうま味が楽しめるのだ。

さて、私たちの生きる世界もどこかこの「糠床」に似ているように思える。

様々な違いを持つ者たちが、家庭や地域、国や世界という同じ入れ物の中で共存するこの世界である。

しかし近年、互いの関係性はますます希薄となり、違う意見を持つ者の間で分断や争いが頻発している気がしてならない。

ある日、糠漬けが酸っぱく感じるものがあつた。

原因はかき混ぜを怠り、糠床に棲む菌類のバランスが崩れたためだった。

糠漬けの妙味は、主流派の乳酸菌だけでは生まれな

い。たとえ少数派の菌類でも、糠床の中ではなくてはならない働きをしているのである。

『法華経』という古き教えに「十界互具」がある。

森羅万象には必ず役割と意味があり、互いに関係し合うからこそこの世界は成り立つと説く教えた。

私達は今一度、仏の教えを味わうときではないか。

古きよき「妙味」には深く豊かな智慧の味がある。

9月2日は何の日

9月2日は宝くじの日。当

選くじを引き換えず時効になるのを減らすためにできたそうです。受けがたき人身を受けて生まれてきた私たちは仏になれるという宝くじを持っているようなものです。時効にならないよう、しっかりと見直すことも大事です。

《法華経に学ぶ現代》 ～純智庵～

但 諸欲に

樂著せるを以て

是の如きらの

衆生は

終に仏道を求めず

『方便品第二』

豊かな世の中 夢見ても心が貧しいままならば願いは

決して叶いませぬ いろんな欲に捕らわれず 小さな夢を 心の中で

ゆつくり ゆつくり育てましょう なにより耐えて

待つことが 仏の教えに叶います

知識まめ仏教

精霊（しょうりょう）

お盆やお彼岸には、ご先祖の精霊を迎え、御供をし供養します。

亡くなった人の靈魂、たましいを、精霊あるいは御精霊といいます。

が、仏ということもあります。事件もののドラマなどで、「仏の身元が分かった」などと、亡くなった人のことを仏という場面があります。

一般的には、ご先祖など亡くなった人のことを、御精霊といたり仏さまと呼んだり区別していないのですが、実は明確な違いがあります。

仏とは仏陀（ぶつだ）を略した言葉で、この世の真理を悟った人、たとえば釈迦牟尼仏や阿彌陀仏などをいいます。従って、ご先祖は仏ではなく精霊というべきなのでしょうが、あの世に旅立たれても仏さまのもとで仏道を修行し、必ず仏になれるということで仏と称するようになったのです。